

(2) 地域資産マネジメントに関する計画技術手法

ここでは、第2章(2)で解説した、都市緑地計画の部門的役割の強化に向けた「地域資産マネジメント」に関する具体的な事例を示す。

① 即地的なデータ分析による社会的条件調査

これからの都市緑地計画が、都市の社会的課題の解決に一層貢献していくためには、計画の前提として行われている社会条件調査・分析に社会問題の空間分析の視点を入れる取組を行うことが有効と考えられる。社会条件調査を行うにあたっては、地理学や社会調査等の多分野の専門家と協働しながら進めるのが有効と考えられる。

現状の緑の基本計画では、緑地の量を対象とした分析だけで完結しているケースが多いが、海外では、健康、所得、貧困、犯罪率などの地図化を通じて、地域特性を把握し、地域の社会的課題の解決の視点から緑地の配置・管理のあり方を示している事例がみられる。

【関連事例】

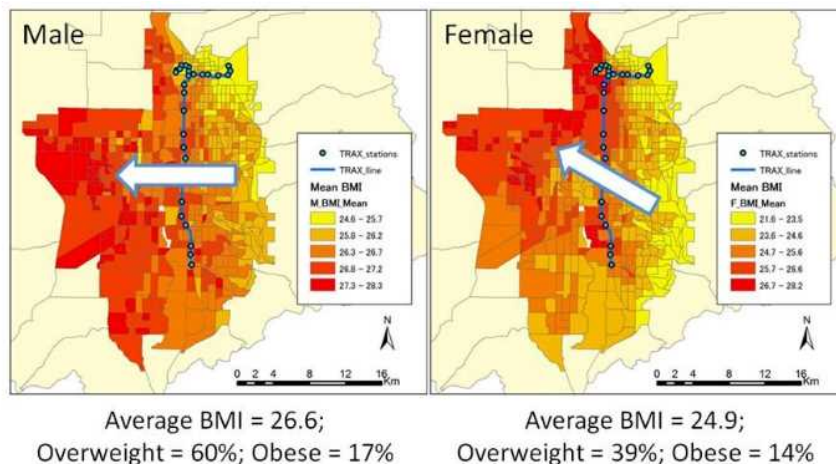
・市内の健康課題と対応するGI機能及び戦略の明示 リバプール市(事例2-1)

グリーンインフラ戦略の一つに、都市の健康改善をあげ、市内の健康福祉部局と連携し、健康機能を持つGIレベルと介入すべき地域を地図化した上で、市内の健康課題と対応するGI機能とその機能向上に向けた戦略を示している。

・社会調査に基づくコミュニティガーデンの配置の検討 ロサンゼルス市(事例2-2)

コミュニティガーデンを配置する際に、収入や経済状況などの面から社会的困難に直面している層がどこに住んでいるのか、既存商店へのアクセシビリティ、住民の肥満度、犯罪率などがオーバーレイされ、社会問題に対して戦略的に配置が検討されている。

図表-4. 4 社会的条件調査に基づくデータ分析の例
(肥満度(BMI)を地図化)



出典：山田育穂氏作成資料(第3章(6)と関連)

■事例 2-1

グリーンインフラ戦略 (Liverpool City Green Infrastructure Strategy) (2010年)
リバプール市 (英)

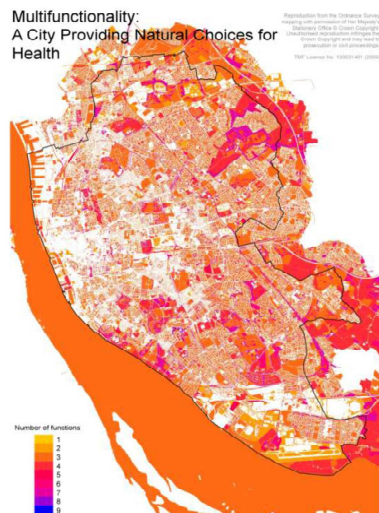
○市内の健康課題と対応するGI機能及び戦略の明示

グリーンインフラ戦略の一つに、都市の健康改善をあげ、市内の健康福祉部局と連携し、健康機能を持つ GI レベルと介入すべき地域を地図化した上で、市内の健康課題と対応する GI 機能とその機能向上に向けた戦略を示している。

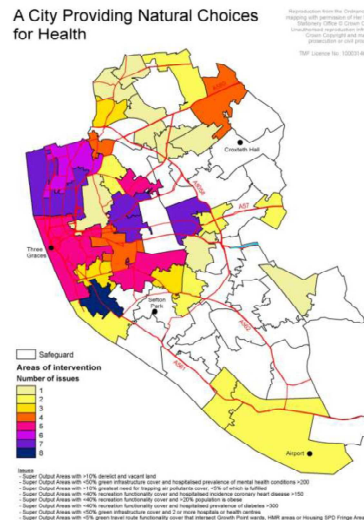
【優先課題：市内の健康改善 (Improving health across the city)】

課題	根拠概要 (エビデンス)	GI 行動計画・実践のタイプ
健康格差	最近の研究では、貧困層の健康、健康状態の悪いエリアと GI の可用性との関連性を指摘。GI レベルの増加が、健康格差を減らすのに役立つことを示唆。	<ul style="list-style-type: none"> 健康と福祉を支援する G I 機能を保護、機能の喪失の緩和を確保 健康機能を持つ GI の整備リニューアルによる、健康格差分野の機能を強化 地元食品 (作物) の育成
高レベルの心臓病	運動レベルの増加は、心疾患の予防・管理に役立つ。また、グリーンエクササイズは、心身両方の健康に相乗効果がある。	<ul style="list-style-type: none"> 高い心臓病の発生率の地域におけるレクリエーション機能を増加
高い肥満率	肥満は、糖尿病や心疾患のリスク増加に関連がある。健康的なライフスタイルの一部として運動量の増加は肥満率の低減に役立つ。	<ul style="list-style-type: none"> GI の低い地域で、マネジメントや新しいエリアの整備によって肥満の多い地域のレクリエーション機能を増加 森の学校、ウォーキングとサイクリング等、GI を使った健康活動の支援
高レベルの糖尿病	運動レベルの増加は、糖尿病の防止と管理に役立つ。	<ul style="list-style-type: none"> GI の低い地域で、マネジメントや新規整備により、肥満の多い地域におけるレクリエーション機能を増加
高い精神疾患	緑地のふれあいと利用を通じて、精神的健康、認知機能、にプラスの効果がある。緑地の視覚的な存在は、木や湖などの自然の要素は、ストレス軽減に十分効果的である。	<ul style="list-style-type: none"> 精神病の高い地域で、GI の低い地域には、GI を増加 場所の質を向上
身体活動の低さ	研究では運動レベルはアクセスできる緑地の大きさに関係が高い。子どもの活発な遊びは、フォレスト学校のようなプログラムによって促される。	<ul style="list-style-type: none"> 森の学校、フィットネス、ウォーキング、健康運動など 住宅地の近くにレクリエーション機能を増加。 質の良い管理運営
大気汚染の低減	樹木による大気汚染の物質の除去、大気汚染の低下に有効。	<ul style="list-style-type: none"> 主要な道路の沿道緑化

【都市内の健康分野の GI の多機能性】



【健康分野の介入が必要なエリア】



出典：Mersey Forest (2010b) 28

■事例 2-2

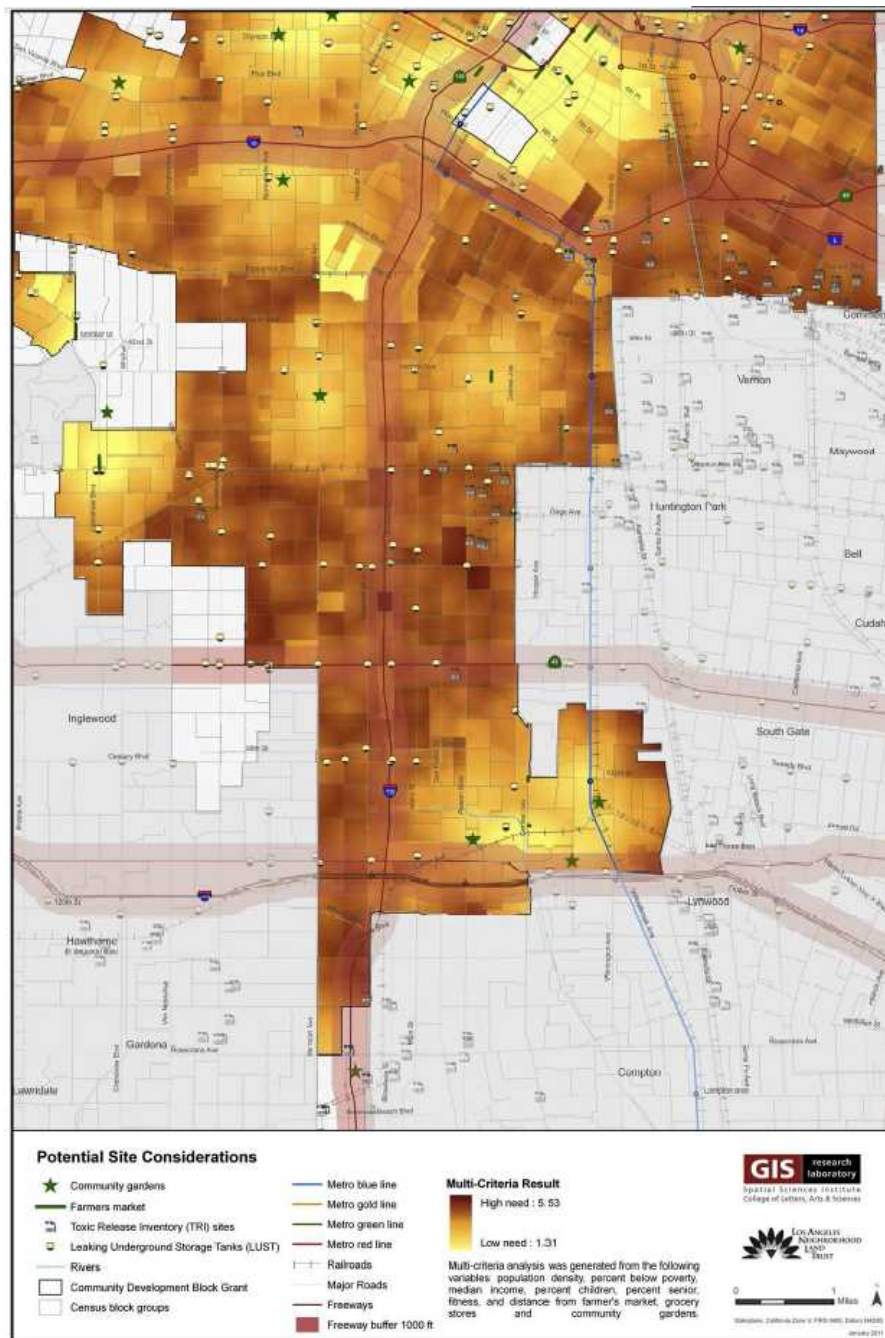
コミュニティーガーデンの配置戦略 (2012 年)

ロサンゼルス市 (米)

○社会調査に基づくコミュニティーガーデンの配置の検討

ロサンゼルス市のコミュニティーガーデンを配置する際に、収入や経済状況などの面から社会的困難に直面している層がどこに住んでいるのか、既存商店へのアクセシビリティ、住民の肥満度、犯罪率などがオーバーレイされ、社会問題に対して戦略的に配置が検討されている。ロサンゼルス市と、大学 (the University of Southern California GIS Department) と、市民団体 (LA Neighborhood Land Trust) の協働により、作成された。

【社会調査分析によるコミュニティーガーデン (CG) の必要性を踏まえた配置の検討】



(星印はCGの位置を示す、茶色が濃いほどCG配置の必要性が高い)

② 暮らしに貢献する緑の将来像と指標の導入

人口減少社会下の都市課題に対応するためには、これまでの量的確保だけでなく、緑地の機能の評価に基づく多機能性向上についても取り組む必要がある。生活の満足度に視点を置いた都市の魅力やQOLに貢献する緑地の指標を充実していく必要がある。

近年の緑の基本計画では、量的確保だけでなく質の重視を打ち出す計画も多く見受けられる。そうした計画では、一人当りの公園緑地面積といった従来の定量的指標に加えて、緑地の質を推し量る定性的指標として「緑の満足度」を用いる場合がある。

しかし、緑自体の満足度を問うだけではなく、都市での生活満足度の向上に、緑がどの程度、そしてどのように役立っているかを評価することも重要である。そのためには、生活満足度向上の要因を分析するとともに、向上に貢献している緑地の存在を検討し、存在するのであればどのような場合に、またどのような理由から満足度向上に貢献しているのかを把握する必要がある。その上で、得られた知見から今後の緑の整備の方法を考えていく必要がある。

【関連事例】

・健康福祉に係る公共オープンスペースの政策指標の開発 ビクトリア州（事例 2-3）

住みやすい健康的な都市（ヘルシーシティ）を目指して公園緑地などの公共オープンスペースとメンタルヘルスや慢性疾患等の健康福祉の関連性について整理するとともに、概念的なフレームワークと政策的な成果指標を開発した。

・施策の分野に基づく具体的な成果指標の設定 福岡市（事例 2-4）

施策の重点分野を3つの柱・13分野に集約するとともに、重点分野ごとに、森林による二酸化炭素吸収量、都心部の緑が豊かであると感じている市民の割合、身近なところに公園があると感じている市民の割合、地域の公園に親しみを感じている市民の割合、公園再整備箇所数など、それぞれに具体的かつ多様な成果指標を示している。

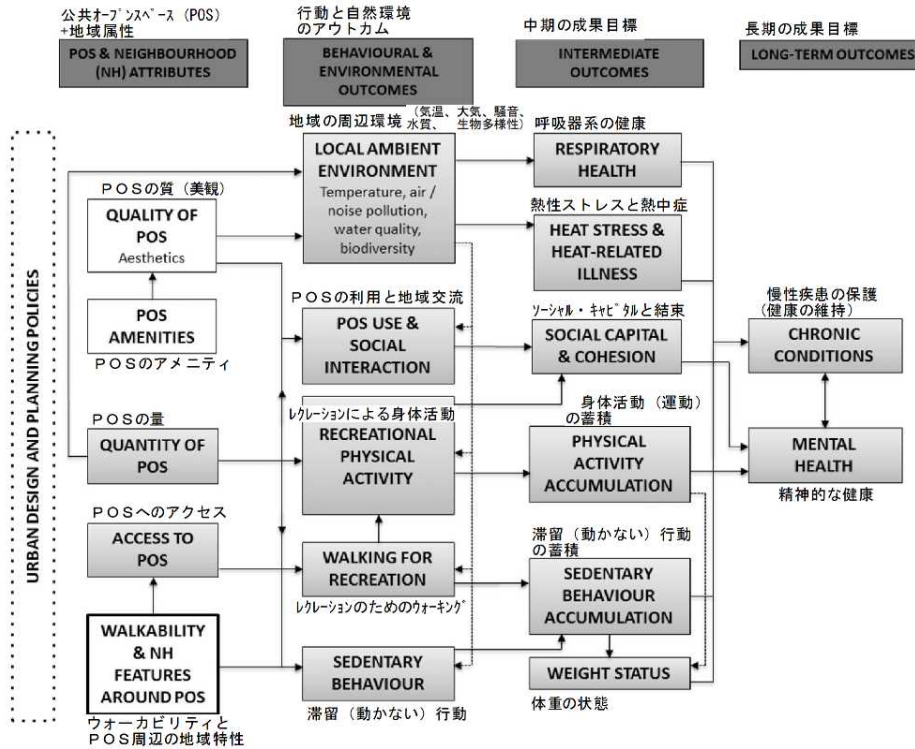
■事例 2-3

公共オープンスペース指標 (Indicators of Public Open Space) (2015年)
ビクトリア州 (豪)

○健康福祉に係る公共オープンスペースの政策指標の開発

オーストラリアのビクトリア州では、住みやすい健康的な都市 (ヘルシーシティ) を目指して公園緑地などの公共オープンスペースとメンタルヘルスや慢性疾患等の健康福祉の関連性について整理するとともに、以下の概念的なフレームワークと政策的な成果指標を開発した。

【健康と福祉の公共オープンスペースの役割：概念的なフレームワーク図】



メンタルヘルス：例) 心理的苦痛, 不安, ストレス, うつ病, QOL の質,
慢性疾患：例) 肥満, 心血管疾患, 糖尿病, 喘息

【空間的に起因する公共オープンスペース (POS) の指標選択の提案】

分類	指標	備考
量	1 統計地域内の POS 面積%	WA (Western Australia) 計画の方針では新規開発地の 10%を公共緑地として求めている。
	2 統計地域内の開発により分割された POS 面積%	
	3 統計地域内の利用可能な POS	
	4 統計地域内の POS サイズ/タイプ	
アクセス	5 統計地域人口の加重重心から最寄りの POS までの道路網距	WA (Western Australia) 計画の公園配置基準
	6 住宅の 95%が地域の公園 (0.3ha 以下) に 400m以内にアクセスできる	
	7 住宅の95%が中規模近隣公園 (0.5-1.5ha) に400m以内にアクセスできる	
	8 住宅の95%が小規模近隣公園 (0.3-0.5ha) に400m以内にアクセスできる	WA (Western Australia) のスポーツ・レクリエーション部局及び自治体の POS 戦略等で推奨する配置基準
	9 住宅の95%が大規模近隣公園 (1.5-2.5ha) に800m以内にアクセスできる	
	10 住宅の95%が大規模近隣公園 (2.5-4.0ha) に800m以内にアクセスできる	
	11 住宅の95%が大規模近隣公園 (4.0ha以上) に5km, 10km以内にアクセスできる	
質	12 質 (魅力) のスコアは、その属性とアメニティに基づいて、数の加重スコアを合計により各POSに割り当てる。 ※要検討指標：空間的かつ大規模な地域間測定への挑戦	POSの属性 (例; スポーツ施設, 沿道の日陰, 水施設, 照明)

出典：Villanueva ら (2015)⁵⁵を参考に作成

■事例 2-4

福岡市 新・緑の基本計画（平成21年5月）

福岡市

○施策の分野に基づく多様な成果指標の設定

福岡市では施策の重点分野を3つの柱・13分野に集約するとともに、重点分野ごとに、森林による二酸化炭素吸収量、都心部の緑が豊かであると感じている市民の割合、身近なところに公園があると感じている市民の割合、地域の公園に親しみを感している市民の割合、公園再整備箇所数など、それぞれに具体的かつ多様な成果指標を示している。

【施策の重点分野に基づく具体的な成果指標の明示】



③ 多様な主体による公園緑地のマネジメント

新たな時代のニーズや都市の課題に柔軟に対応して、より一層まちのため、市民のために都市公園がそのポテンシャルを発揮するためには、まず公園管理者自らが魅力ある美しい都市公園の整備とその特性等を踏まえた管理運営の重要性を認識し、その上で市民や民間事業者、NPO 法人など多様な主体との協働による公園整備、管理運営を推進することが必要である。

このため、ある都市公園は市民による自主的な整備・管理運営に委ねて地域コミュニティの形成や醸成の拠点として、ある都市公園はにぎわいの拠点として様々な施設の導入、イベントの誘致等により都市公園の整備・管理運営に活用できる自主財源を確保し、整備や管理運営に還元するなど、都市や都市公園の特性等に応じてメリハリをつけた上で、個々の都市公園を「使いこなす」あるいは「使い倒す」、「使い倒してもらおう」といった視点をもつべきである。

多くの主体の参画を誘発するためには、共有しやすい目標や、参画による効果をわかりやすく提示し、理解、意識の向上を図ることが求められる。計画策定への参加から進捗報告まで細やかな情報共有、協働体制によって、参画の意欲を高める体制は、施策や事業への参加や、活動の担い手となる組織形成を促す一策である。

【関連事例】

・市民・事業者・行政のパートナーシップによる公園経営 名古屋市（事例 2-5）

従来の行政主導による公園管理から脱却し、公園を「市民の資産」としてとらえ、市民・事業者・行政のパートナーシップのもと、経営的な手法で公園を最大限に利活用していく「公園経営」の考え方で、公園の利用者満足度の向上とまち全体の魅力アップをめざしている。

・区民との協働による公園利用のしくみづくり 足立区（事例 2-6）

利用者にとって全ての公園が必ずしも魅力的とはいえない面があるとした上で、利用者・関係者が協力しながら、地域や公園の特性にあった利用のしくみを考え、行動していくことで、より良い場所に変え、「真にいきいきした公園づくり」を進めることとしている。

・住民グループ主体の公園運営（有馬富士公園） 兵庫県（事例 2-7）

住民参画型運営のきっかけ、受け皿として住民グループが主体的に企画・運営する“夢プログラム”というしくみを導入し、約 30 のグループが夢プログラムを実施し、約 6 万人の参加者を楽しませている。

・企業協働型の公園整備（豊砂公園） 千葉市（事例 2-8）

豊砂公園（約 2.1ha）の管理運営を行う民間事業者を公募し、市とイオンモール株式会社の間でパークマネジメント協定を締結。同社は、多目的に利用できる芝生を中心とした公園で、多彩な催しを開催し、にぎわい創出、地域の魅力向上につなげている。

・福祉部局と連携したによる公園での健康づくり 北九州市（事例 2-9）

「健康づくりを支援する公園整備事業」の取組を、ハード（健康遊具開発・設置：建設局）とソフト（運動教室：保健福祉局）の両輪で展開している。

・地域性に応じた緑地の位置づけ 台東区（事例 2-10）

イベントの際の一時的な緑も「可動な緑」として、計画対象に位置づけ、区民、事業者、行政が、一丸となって緑のまちづくりを進めている。

■事例 2-5

名古屋市公園経営基本方針（平成 24 年 6 月）

名古屋市

○市民・事業者・行政のパートナーシップによる公園経営

「名古屋市公園経営基本方針」は、「なごや 緑の基本計画 2020」に基づく計画であり、従来の行政主導による公園管理から脱却し、公園を「市民の資産」としてとらえ、市民・事業者・行政のパートナーシップのもと、経営的な手法で公園を最大限に利活用していく「公園経営」の考え方で、公園の利用者満足度の向上と名古屋の魅力アップを目指している。

公園経営の推進策として、公園を核にした地域コミュニティ活動の推進などによって、公園の利用と愛着を高める「地域の庭プロジェクト」、市民・事業者と協働で公園とまちのにぎわいを創出し、名古屋の魅力を高めていく「にぎわい広場プロジェクト」、生物多様性に配慮した協働管理を推進する「自然の恵みプロジェクト」、民間事業者の事業参画、市民・事業者からの寄附など、公園経営の取組へ民間活力の導入を進める「民間活力導入プロジェクト」を柱とし、各種取組を実施している。

【関連する計画】

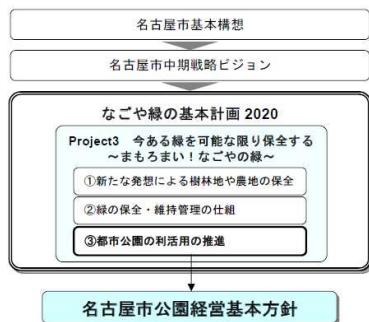
・名古屋市公園経営事業展開プラン（平成 25 年 7 月）

名古屋市公園経営基本方針に基づき、今後 10 年間で優先的に取り組むべき課題と戦略、個々の戦略にかかる主な取組内容と事業スケジュールを示したもの。

・管理運営方針（パークマネジメントプラン）（平成 27 年 11 月現在、13 公園で作成）

名古屋市公園経営基本方針に基づき、各々の公園のニーズを把握し、その公園の特性を踏まえて、「公園がめざすべき姿」と「それに向けた取組方針」について定めたもの。

【名古屋市公園基本方針の位置づけ】



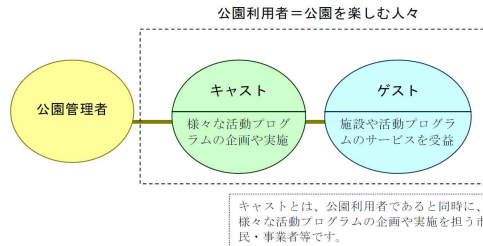
【公園経営への転換】



【公園経営の取組メニューと効果】



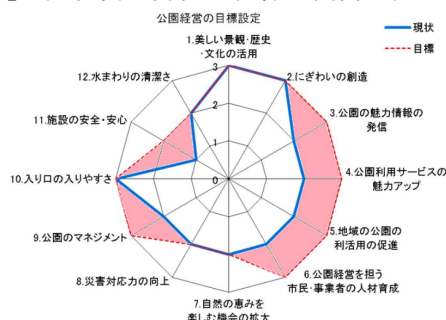
【公園経営を担う市民・事業者の人材育成】



【市民・事業者・行政のパートナーシップ】



【公園経営の評価と目標（鶴舞公園の例）】



出典：名古屋市(2012)⁵⁷，名古屋市(2013)⁵⁸，名古屋市(2015)⁵⁹

■事例 2-6

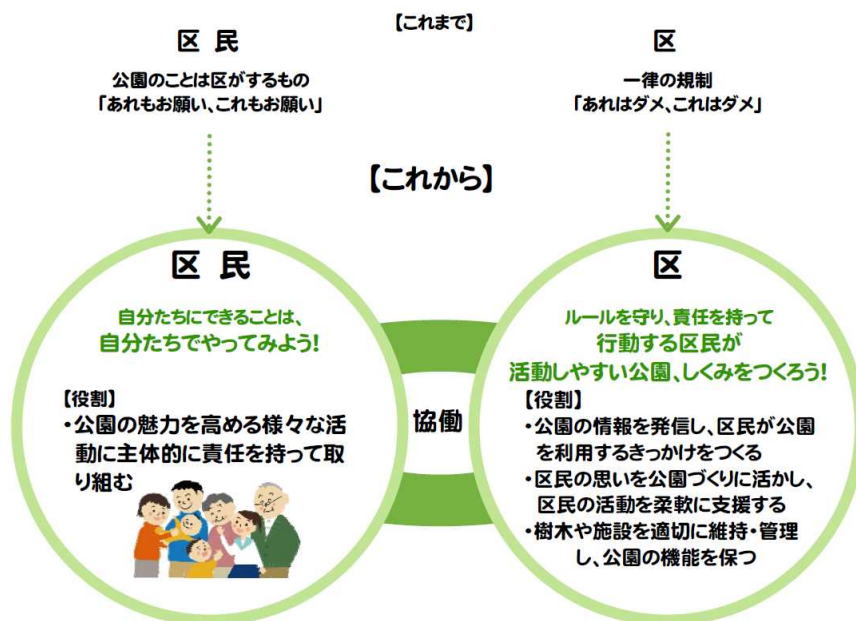
あだち公園☆いきいきプラン（平成 23 年 6 月）

東京都足立区

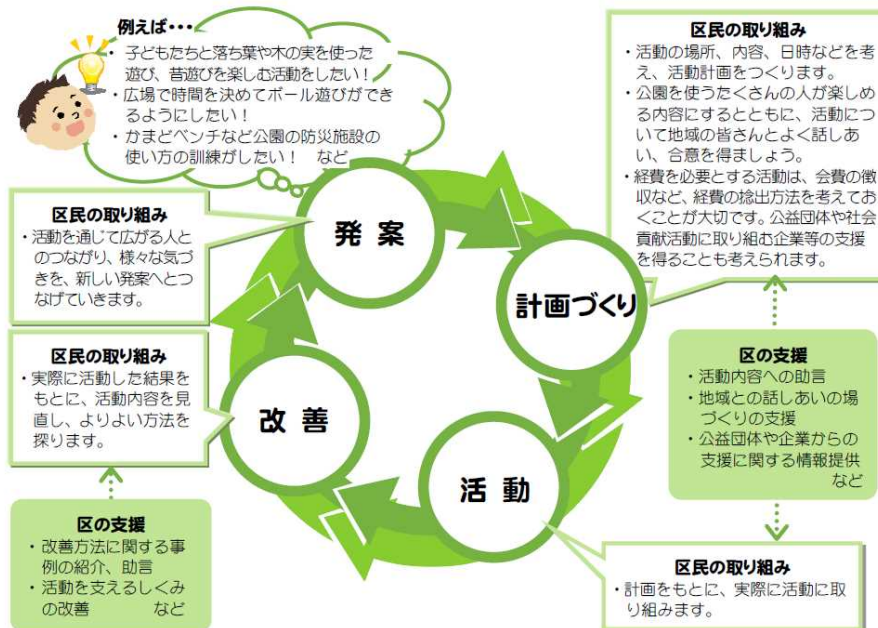
○区民との協働による公園利用のしくみづくり

あだち公園☆いきいきプランは、「足立区緑の基本計画」に基づく都市公園の個別計画である。利用者にとって全ての公園が必ずしも魅力的とはいえない面があったとした上で、利用者・関係者が協力しながら、地域や公園の特性にあった利用のしくみを考え、行動していくことで、より良い場所に変え、「真にいきいきした公園づくり」を進めることとしている。同プランでは、「使う人が責任を持つことを前提に、ここまでやってみよう」という視点を重視するとともに、区民と区の協働による管理・運営の方法について、多くの試行錯誤を積み重ねながら確立していく方針を示している。

【これからの公園の管理・運営における区民と区の役割】



【区民と区の協働による管理・運営のイメージ】



■事例 2-7

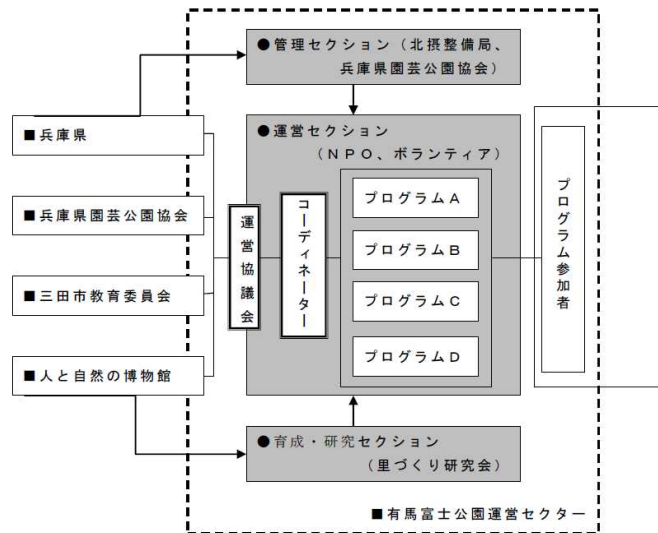
ありまふじ夢プログラム（平成 13 年～）

兵庫県

○住民参加型の公園運営（有馬富士公園）

兵庫県立有馬富士公園は、平成 13 年に開園した 175.2ha の広域公園で、兵庫県の都市公園としては住民参画型の公園運営を導入した最初の事例となっている。住民参画型運営のきっかけ、受け皿として住民グループが主体的に企画・運営する“夢プログラム”というしくみを導入し、約 30 のグループが夢プログラムを実施し、約 6 万人の参加者を楽しませている。有馬富士公園のパークセンターの現場には、正規職員のコーディネーターが 2 人常駐しており、夢プログラムを実施する住民グループをサポートし、手続き、ルール等の改善を繰り返している。

【有馬富士公園の運営組織体系】



【夢プログラムの実施状況】

年度	企画書数	延べプログラム実施日数	グループ数	参加人数
13	60 件	104 日数	22 団体	18,089 人
14	43	191	23	27,896
15	56	696	25	52,396
16	78	626	28	43,764
17	86	526	30	46,245
18	119	569	33	50,060
19	108	686	31	50,376
20	113	882	31	53,615
21	105	736	31	54,310
22	106	677	31	54,587
23	136	993	31	56,945
24	119	1,250	31	58,852
25	133	1,284	31	60,556
26	140	1,312	31	62,153

【太陽観察のプログラム】



【工作のプログラム】



【里山管理のプログラム】



出典：兵庫県北摂整備局・(社)日本造園学会(2000)⁶¹，公益財団法人兵庫県園芸・公園協会提供資料
兵庫県立人と自然の博物館提供資料

■事例2-8

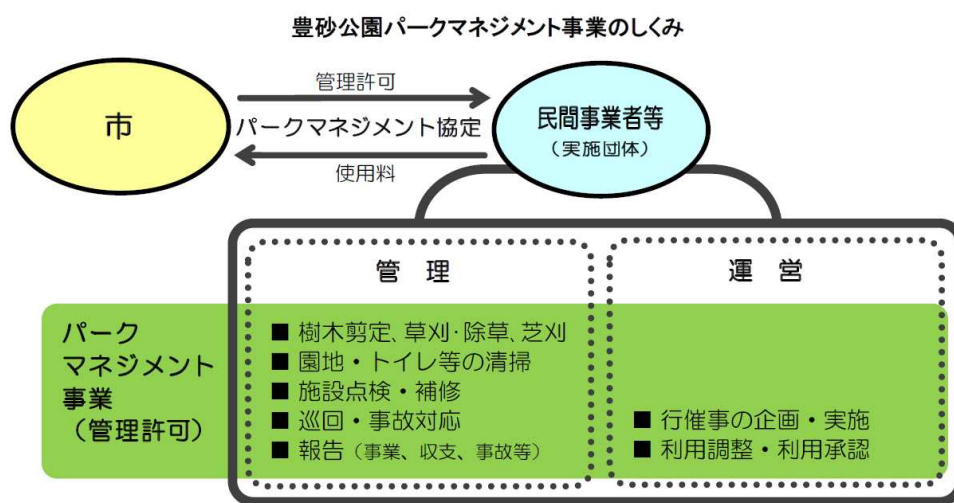
豊砂公園パークマネジメント事業（平成25年12月～）

千葉市

○企業協働型の公園運営管理

千葉市は、平成25年9月に同公園に隣接する大型商業施設を運営するイオンモール株式会社とパークマネジメント協定を平成25年12月に締結した。民間事業者を活用して、公園で多彩な催しを行ってもらうことで、幕張新都心地区のにぎわい創出、地域の魅力向上につなげている。なお、パークマネジメント事業は全て民間事業者の自己資金によって行うとともに、都市公園法に基づく「管理許可」を受けるにあたり、所定の使用料を年度ごとに納入することとなっている。

【豊砂公園パークマネジメント事業のしくみ】



【イベントの開催によるにぎわいの創出】



出典：千葉市(2014)⁶²，イオンモール株式会社提供資料

■事例 2-9

健康づくりを支援する公園整備事業(平成 23 年～)

北九州市

○保健福祉部局との連携による公園での健康づくり

北九州市では、緑の基本計画において、人口減少、超高齢・少子化への対応という市全体のまちづくりの方向性を踏まえ、計画の視点のひとつに、「健康・生きがい」を掲げている。それに基づき、各種施策を展開しているが、特に早期に実現すべき重点施策のひとつとして、「健康・生きがいにつながる緑の先導的プロジェクト」を設定し、健康づくりを支援する公園整備を進めている。健康づくりを支援する公園整備については、「北九州市健康づくり推進プラン」にも位置づけられ、公園整備後は、保健福祉局が健康づくり教室などのソフト事業を行うことで、継続的な健康づくりを進めていくこととなっている。

【緑の基本計画の 4 つの視点】

- 【環境首都の魅力】 環境首都の機能を高める緑化と特色ある緑の保全・活用
- 【健康・生きがい】 健やかで生きがいのある暮らしに寄与する緑と公園づくり
- 【安 全】 暮らしの安全に寄与する緑と公園づくり
- 【協 働】 市民とともに創る緑のまちづくり

(2) 健康づくりや癒しに活用できる公園づくり

① 健康づくりを支援する公園整備

市民が健康づくりに活用できる公園づくり

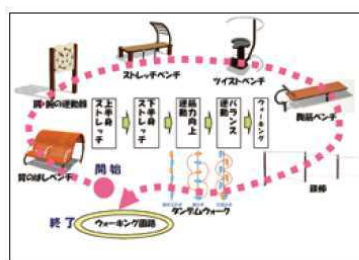
- ・健康づくりを継続させるためには、身近な場所で仲間と楽しく行うことが効果的です。
- ・そのため、地域のまちづくり協議会や自治会、老人クラブなどと連携を図り、市民が自主的、日常的に健康づくりに取り組むことができる公園づくりを進めます。
- ・整備した健康遊具やウォーキング園路は、市民が行う健康づくりや介護予防の取り組みと連携し効率を高めます。



広場を健康づくりに活用



健康づくりモデル公園のイメージ



運動プログラムと連携

【健康づくり推進プランにおける公園整備に係る記載】

No.	事業名(担当課)	事業概要
98	【重点】 健康づくりを支援する公園整備事業 (建設局 緑政課)	医学・運動学の観点から、健康遊具を効果的に配置し、高齢者の健康づくりが行える公園を整備します。また、設置する健康遊具は高齢者に優しく、高齢者の身体や運動機能の改善につながる仕様とします。

■事例 2-10

台東区緑の基本計画（平成 24 年 3 月改訂）

東京都台東区

○地域性に応じた緑地の幅広い定義

計画における対象とする「緑」について、公園や道路、学校などの公共施設としての緑地だけでなく、民有地も含めて、樹木や草花等の植物やそれらに覆われている土地、水面も含むものとし、さらに同区では、緑に関するイベントが多く開催されていることから、イベントの際の一時的な緑も「可動な緑」として、計画対象に位置づけ、区民、事業者、行政が、一丸となって緑のまちづくりを進めている。また、区全体で回遊性のある緑空間の形成に取組、個性あるまち並みを活かしつつ、可動的な緑の設置や地先園芸の推奨を行っている。

【緑に関わりの深い祭りやイベントを活かした回遊性のある緑空間（イメージ）】

【横断的な取り組み方針】

回遊性のある緑空間の形成



凡例

- 春のイベント
- 夏イベント
- 秋のイベント
- 冬のイベント
- 七福神めぐり
- 公園等
- 街路樹
- ビオトープ
(ビオトープとして学校・公園に設置された施設)
- 水面

「回遊性のある緑空間」を構成する要素のイメージ[※]

緑の下町散歩道

- ⇄ 公園等の四季を彩る豊かな緑の散歩道
- ⇄ にぎわいまちなかの花や緑の散歩道
- ⇄ 下町風情のある緑の散歩道
- ⇄ まちにうらおいを与える庭や地先の緑の散歩道
- ⇄ 隅田川・神田川からの風の道
- ⇄ 生き物の移動経路(生態系ネットワーク)

※図に示している要素はあくまでもイメージとなっております。

【「可動な緑化」の計画への位置づけ】

取り組みの柱③ 可動な緑化

＜取り組みによって特に実現を目指す基本方針＞

- Ⅰ 人と緑と生き物のふれあいを大切にします
- Ⅱ まちのにぎわいを緑がサポートします
- Ⅲ 区民・事業者・行政が一丸となって緑のまちづくりを進めます

台東区ならではの地先園芸をはじめとする身近な緑化をより推進するための制度を検討するとともに、適正な地先園芸を推奨するための講習会の開催やルールブックの配布などに取り組みます。

四季折々のイベントの開催に合わせた花鉢などの一時的な緑化の支援を検討します。



お富士さんの植木市の様子

【既に実施している主な取り組み】

- ・地先園芸の推奨

【新たな取り組み】

- ・イベント時の一時的な緑化に対する支援
- ・主要駅周辺の緑化の推進

【地先園芸】



谷中地域の地先園芸

【コラムで園芸文化を紹介】

コラム 入谷の朝顔

江戸時代の朝顔朝顔は、文化3年(1806年)の「文化の大火」の後に、広大な空地となった下谷周辺で植木屋がアサガオの栽培を始めたのが起源です。天明朝顔(1830～44年)になると、江戸の中心地が谷に移動し、植木屋による販売目的とした朝顔園芸が興る契機となりました。

当時のアサガオは、現在残ったラッパ型の花ではなく、種庫のような花の形など様々な「変化朝顔」といわれるものが流行していました。

大正朝顔の中期になると、朝顔朝顔の流行は終わってしまいましたが、戦後の昭和25年には、地元の高橋によって、「入谷朝顔まつり」として再開され、現在でも夏の到来を告げる行事となっています。



「三十六花朝顔入谷朝顔」
作者：中野村の朝顔朝顔